

科目名称	環境と生物多様性
授業コード	AB273
英語名称	Environment and Biodiversity
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	篠原 正典
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	環境とはなにか、生物多様性とはなにかを、基礎から学び、それらを保全することの意味と具体的な取り組みを学ぶ。科学的な調査の結果や取り組みの様子を詳解するだけでなく、思想的・政治的な情報もふんだんに盛り込んで解説することで、総合的な理解を目的とする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	財団法人（現在は公財）における閉鎖型生態系実験施設の構築、また、その施設内での居住技術の開発、および、居住実験への参加という実務経験を活かし、環境の構築と評価法、また、生態系の構築メカニズムやその多様性の評価法などに関して講義を行う。
到達目標	環境とはなにか、生物多様性とはなにか、基礎から具体的な取り組みまでを総合的に理解し、多様性の評価に関して量的評価方法の基礎に関して理解することを目標としており、カリキュラムポリシーにおけるより専門性の高い専門科目としてのマクロ系生物学として位置づけられ、ディプロマ・ポリシーにおける、高度な知識を修得し応用力を深め、現代の環境に関する多様な課題を発見、収集、分析し、その課題を解決する能力を身につけることの実現につながる科目である。
計画・内容	<p>1) はじめに：環境とは、生物多様性とは 予習：不要 復習：講義ノートの見直し</p> <p>2) さまざまな「環境」 予習：配布資料の当該部分を読んでおく 復習：講義ノートの見直し</p> <p>3) 環境観の変遷 予習：受講者自身の環境観を文章化しておく 復習：講義ノートの見直し</p> <p>4) 環境倫理 予習：配布資料の当該部分を読んでおく 復習：講義ノートの見直し</p> <p>5) 環境教育 予習：配布資料の当該部分を読んでおく 復習：講義ノートの見直し</p> <p>6) 「生物多様性」の誕生 予習：配布資料の当該部分を読んでおく 復習：講義ノートの見直し</p> <p>7) 生物多様性の三つのレベル 予習：配布資料の当該部分を読んでおく 復習：講義ノートの見直し</p> <p>8) 生物多様性の保全1：国際レベル 予習：配布資料の当該部分を読んでおく 復習：講義ノートの見直し</p> <p>9) 生物多様性の保全2：各国の取り組み 予習：配布資料の当該部分を読んでおく 復習：講義ノートの見直し</p> <p>10) 生物多様性の保全3：研究者の具体的取り組み1 予習：配布資料の当該部分を読んでおく 復習：講義ノートの見直し</p> <p>11) 生物多様性の保全4：研究者の具体的取り組み2 予習：配布資料の当該部分を読んでおく 復習：講義ノートの見直し</p> <p>12) キーストーン種とアンブレラ種 予習：配布資料の当該部分を読んでおく 復習：講義ノートの見直し</p> <p>13) 里山の多様さと持続可能性 予習：配布資料の当該部分を読んでおく 復習：講義ノートの見直し</p> <p>14) 環境の豊かさと人の精神的豊かさ</p>

計画・内容	予習：配布資料の当該部分を読んでおく 復習：講義ノートの見直し 15) まとめ 予習：全配布資料・全講義ノートの通読 復習：同左の見直し
授業の進め方	パワーポイントスライドを用いた講義主体で進める。計算を伴う課題に関しては十分な演習の時間を設ける。他にビデオや資料などを適宜提示する。
能動的な学びの実施	該当しない
授業時間外の学修	上記計画・内容に示した予習・復習を前期を通して60時間（各回に2時間の予習と復習）を目安に行うこと。
教科書・参考書	教科書は指定しない。以下が参考図書となる。 リチャード・プリマック著「保全生物学のすすめ」文一総合出版 鷲谷いずみ・矢原徹一著「保全生態学入門」文一総合出版 大串隆之編「生物多様性科学のすすめ」丸善 樋口広芳編「保全生物学」東京大学出版会 宮下直ほか著「生物多様性と生態学」朝倉書店
成績評価方法と基準	授業中に課す数回のレポート（10%）と期末試験（90%）により総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	授業中の演習に関しては授業内で評価・解説を完結し、授業外で課すレポート課題に関しては共通して解説・補足が必要な部分に関して、次の授業の中で解説を行う。
オフィスアワー	木曜日の昼休み時間帯。
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の資料や動画をオンラインで配布するオンデマンド型の授業を行います。出欠確認も兼ね、課題提出を毎回課します。必要に応じてオンラインでの双方向対話型の授業も行いますが、その際は事前に連絡を行いますので注意してください。 本システム経由で「試験問題の配布」と「回答の提出」を行う期末試験を授業時間内（14回、15回）に、時間を厳密に定めて実施します。この場合、通常授業での課題と期末試験をおおよそ3：7の割合として総合的に評価します。